

伊那民報

発行
日本共産党
伊那市委員会
伊那市狐島3879
有線7(72)2465
ホームページ開設

日本の命運かかる総選挙

650万票、議席倍増をめざし、共にがんばりましょう

日本共産党上伊那地区委員長 大我 進

読者のみなさん、日頃のご愛読、党へのご支援ありがとうございました。9月の地区党会議で地区委員長に選出されました大我進です。どうぞよろしくお願いいたします。

党は第5回中央委員会で、総選挙の方針を決め、「総選挙は歴史的岐路における重要な意義をもつたたかい」と位置づけました。「650万票以上の得票で議席倍増」を果たし、国民の「政治を良くしてほしい」との期待にこたえるものです。

政治情勢は、二大政党づくりが破綻に直面し、大きな二つの流れの対決構図が浮き彫りになっていきます。一方は、自民党化を完成させた民主党と、さらに右傾化する自民党、「突撃隊」の役割を果たす日本維新の会が、国民のくらしそつちの力で戦争できる国づくりをすすめる、危険な流れです。他方は、「原発ゼロ」「TPP反対」

など、国民のたたかいが各分野で歴史的に高揚していることで、



雨の中、原発ゼロのデモ隊の先頭に立つ三沢よしお5区予定候補(中央)

など、国民のたたかいが各分野で歴史的に高揚していることで、

力いっぱい訴えます！

衆議院比例代表予定候補

藤野やすふみ

10月16日付の「しんぶん赤旗」4面で、私の訴えを紹介していただきました。「語る@総選挙」という特集です。

東奔西走記

私の演説(自然エネルギーへの転換で地域に雇用が生まれる話)を聞いてくださった若い男性が、

カット

その中で日本共産党が重要な役割を發揮してきています。

私たちは総選挙で、消費税増税の実施阻止、即時原発ゼロ、東日本大震災の復興、TPP参加絶対阻止、オスプレイ配備撤回・日米安保の是非を問うことを掲げてたたかいます。それらの実現には、比例区で藤野やすふみ予定候補5区では三沢よしお予定候補の必勝が不可欠です。みなさんの大きなご支援をよろしくお願いいたします。

「初めてエネルギーの話を身近に感じた。身近なところから転換できると納得した」と感想を寄せてくれました。うれしいですね。これからも力いっぱい訴えます！



大演説会用の新しいポスターができました

地蜂

遺骨を迎ふ
しぐれつつ

山頭火

この俳句の色紙が伊那市美篤の矢島太郎さん家にある。高遠町河南の前田若水さんから譲られた。昭和十二年七月、日支事変勃発、日本中から応召兵が続々と中国へ。やがて大勢戦死、白い函となって帰ってくる。掲句は山頭火の郷里山口県山口駅頭の光景で、六百五十柱というとても多い多数の戦死者の霊。初冬の時雨に静静と列をなす。自由律の俳人種田山頭火(1882-1940)は、昭和十四年五月三日午後一時伊那町駅着、伊那高等女学校の前田若水(山頭火と同じ「層雲」同人)を訪ね、二人で井上井月の墓参りに美篤大田窪の塩原梅蘭の墓地へ井月は明治二十年三月十日、六十六歳没。梅蘭が三峰川から拾ってきたという赤御影のごく簡素な墓石だったが、その写真を昭和五年発行の『井月全集』で見て、山頭火は井月に強い憧れを抱き、井月の墓参を念願とした。山頭火は伊那町の若水の家に二泊、盛んに色紙に揮毫。その一枚が、しぐれつつ...である。この一句を見ても山頭火の戦争に対する感じ方・考えがわかる。「支那軍の暴戾を鷹懲する」という当時の政府。戦争を謳歌し煽る新聞・世論に山頭火は加担しない。体制と無縁に、自己の道を歩もうとする。戦争で傷つく日本人・中国人を思いやる。

各所で開かれる日本共産党演説会

「消費税に頼らない別の道」「領土問題」「TPP、オスプレイ、米軍基地を押しつけるアメリカ言いなり断つ」日本共産党の演説会でズバリお話しします。

ぜひお出かけください。

- 10月28日(日)午後3時 上の原公民館・大広間
- 11月11日(日)午後3時 高遠町福祉センター「やますそ」
- 11月18日(日)午前10時 西箕輪老人憩の家
- 11月25日(日)午後2時 JA春富支所2階(元東春近支所)

お話は各会場とも、三沢よしお五区予定候補、小林伸陽県会議員、党伊那市会議員等です

基地はいらない、増税阻止、原発ゼロ、TPP反対

共産党が一斉宣伝行動

10月18日、北陸信越5県の共産党は、総選挙勝利に向けて、藤野やすふみ比例候補、三沢よしお5区候補、地方議員、支部員らが街頭や駅頭で一斉に宣伝しました。

伊那では、春近大橋、中央区、新山入口、双葉町、大萱の各信号前でおこないました。

行動に参加しているある支部員は、「回を追うごとに反応も高まりを見せてきており、いつも無表情で素通りしていた人



新しいポスターを貼る支部員

が挨拶してくれたり、大型ダンブの運転台から手を振ってくれるなど、共産党への期待を感じる事ができる」と話していました。

一斉行動は、毎月第3木曜日の朝、次回は11月15日を予定しているので読者のみなさんも参加してくださいとのことです。

NEC裁判

証人要請署名1730人分を送る

さらさら「署名」の協力をよびかけ

NECライティング(以下NEC)住民訴訟の裁判が10月15日、長野地裁で6回目の裁判が行われ今回は12月6日に決まりました。

この間、原告側は被告側と証拠書面を取り交わしており、被告側とNEC側(被告を補助)は工場用地の取得などをめぐる見解が大

きく食い違い矛盾を露呈させています。

原告側はこうした中、関係者の小坂樫男前市長、白鳥孝市長とNEC担当者等の証人申請を10月1日に行いました。同時に、証人を求める「要請署名」1730人分を10月11日に第一次分として裁判

長に送りました。

原告団事務局によると「NEC問題の真相究明と賠償責任を明確にすることと裁判が公正に行われる事を求める」

証人要請署名」は、次回裁判前の11月いっぱいまで取り組む」とし市民に協力を呼びかけています。



新しい仲間元気をもって

荒井区を担当する中央支部は世帯数1435、有権者約2800人で労働者と商店が集中している地域です。支部会議は月1回が精一杯のところですが、全員が参加でき、世間はなしと政治討論に花を咲かせ、活動の交流と行動予定を立てるようになっています。

今年4月、2人の転入党員を迎えて新しい息吹の中「党勢拡大運動に取り組もう」と計画し、以前「しんぶん赤旗」を購読していた人や地域で結びつきのある人を地図に印をつけ、前沢市議の援助も得て行動しています。先日は、かつての同僚や元読者に働きかけて日曜版を購読してもらうことができました。

支部では「650万票獲得で議席倍増」をめざす総選挙に向けて後援会づくりを急いでいます。そして、11月18日、西箕輪の老人憩の家での演説会と支部の地元で開催する12月8日県文化会館での大演説会の成

共産党の支部活動

中央支部

功に向けて、多くの人に呼びかけて参加してもらい、日本共産党への理解と支持を広げていきたいと考えています。



里山の自然から学ぶ

市民の森林（もり）に長靴先生を迎えて

伊那谷住民大学は、10月21日、「秋の自然講座」を、ますみヶ丘の平地林でおこないました。

講師は、「長野日報」の「長靴先生のフィールドワーク」でもおなじみの建石繁明さん（農学博士・元信大農学部教授）。

ますみヶ丘平地林は、1980年代後半にゴルフ場建設計画が持ち上がったが、地権者・市民の反対運動により計画は中止され、現在は一部が市民の森林（もり）として親しまれていま

建石さんから、地層や地下水脈、キノコのお話を聞いたあと、みんなでのこ狩り。食べられそうなキノコを採って来て、鑑定してもらいました。ベニテングダケという毒キノコが一面に生えてしまいたが、なんとか、夜の汁になるくらいのもものは、みなさん、採ることができたよつでした。

子ども達の参加もあって、秋の一日を楽しんでいました。



採れたキノコを鑑定中

窓の市議

種を蒔く

前沢けい子

私の好きなことの一つに、種を蒔くことがあります。

今から5年位前（だと思っ）に枇杷を食べて、種を蒔きました。枇杷の実の中にはアミグダリン（ピタミンB17）という成分があつて、これが癌の特効薬であると言つ研究報告もあります。蒔いた枇杷は全て芽が出ました。何回か植え替えをして、今

では一番大きいのは背丈が140cm程になりました。この枇杷を露地に下ろして実がなる事を願っているのですが、これがなかなかできません。私の住んでいる羽広は標高が850m以上で、枇杷が育つには少々環境が苛酷ではないかと思つからいます。

この枇杷の鉢は年々減っています。なぜかと言つと「これ枇杷じゃない？一鉢頂戴」と言われてあげてしまうからです。そこで今年には勇気を出して3本を地面に下ろしてみました。今年の冬を越せるかどうかが、心配です。

昭和初期の上伊那

2・4事件の頃 11

今号も2・4事件のおきた一九三三年（昭和八年）頃の革新勢力の状況を、赤色救援会の続きから見えていきます。

赤色救援会長野支部

上伊那地区

ところが八月に埋橋十春、唐沢清直の保釈が取消され収監されたため、再び活動が消滅の危機に陥りました。

このとき、全農の上伊那地区委員会が「地区委員の坂井喜夫を責任者として組織活動の開始」を決めました。

そして、埋橋・唐沢の救援活動を開始、さらに治安維持法違反で検挙された上伊那出身で在京の被検挙者唐沢清勝、原俊雄、小坂光春等の救援基金を集めたり、唐沢清直の家族救援のため稲刈りの共同作業などを行ってきました。また、救援会本部との連携の下で組織の確立に努め、全協



無産者新聞に掲載された労働者の隊列

全農全会上伊那地区委員会

全国農民組合は一九二二年（大正十一年）四月九日に創立されました。

一九二一年（昭和六年）、大山郁夫などの提唱した合法政党労働党を支持する本部派と支持強制反対全国会議（略称全農全会）が生まれ、長野県の農民運動の大半は全農全会に結集していました。小坂光春氏の著書「黎明」に、当時、全農全会上伊那地区の常任書記をしていた馬場長治氏の資料として、2・4事件の前年一九三二（昭和七年）五月頃には「組員数は上伊那全体で五五〇人を超える大きな組織」に発展していたと記されています。

産業労働調査所 上伊那通信員

西春近村の坂井喜夫は、上伊那郡藤沢村の出身で産業労働調査所の所員であった秋山憲夫の紹介で同所の通信員となり、全農全会の組員協力を得て上伊那の農村の基本調査を行いました。（文中敬称略）

境界 有賀光良

日本赤色救援会 革命運動家の救援を行う人権団体。1928年の3・15事件の被告を救援するために設立された「解放運動犠牲者救援会」が起源。治安維持法の弾圧犠牲者の救援活動を行ってきました。現在の国民救援会の前身にあたります。

伊那谷の歴史散歩

組織、それに全農上伊那地区や共青上伊那シンパ団体などの団体加盟をつけて、2・4事件による検挙まで活動が続けられました。

随想

9年ぶりの長野県母親大会

上伊那母親連絡会 井上志をり

今年の県母親大会は、9月30日に、駒ヶ根文化会館を主会場に開催されました。8月末に新潟県で行われた日本母親大会に力を注いでいたこともあり、一時は開催が危ぶまれたが、上伊那母親大会で数年ごとに行っている「意見発表」を取り入れることで、分科会会場や準備時間の不足を補い、開催に漕ぎつけることができました。

午前中、文化会館ホールで各地域からの「意見発表」と同時に、「かんでんぱガーデン」「駒ヶ根シルクミュージアム」「飯島陣屋」の3カ所で見学分科会を行い、小ホールでは「親子リズム」の会を催しました。見学分科会は、夏前から用意しましたが、どこも人気が高く、抽選で参加できた人たちにも満足してもらえました。

「意見発表」には11の地域や団体の方が発言しました。子どもと学校をめぐる様々な問題の「今」、年金、ごみ問題、放射能、女性の地位向上、市立産院の実現、平和運動等々、女性と子どもを取り巻く問題に対して、県内各地の女性たちが知恵と工夫を重ねて取り組んでいる様子が伝わってきました。上伊那からは「伊那谷五人衆」と題した芝居仕立てで、過疎と高齢化・グローバル化とTPP・脱原発・オスプレイと飛行訓練・リニア新幹線について発表しました。会場では一人ひとりのセリフに反応して、一気に連帯感が強まった感がありました。

記念講演で、精神科医の野田正彰さんが「希望の持てる明日にするためには、自分を取りまく社会に目を向けて、起こっていることを見極め、行動すること」と強調されました。心の持ちようだけでは希望を持って生きられない、行動しなければいけないと改めて感じた大会でした。

当日はたくさんのお店もあり、ロビーも大賑わいでした。ご苦労いただいたみなさんに感謝申し上げます。

絵手紙

高尾町 山崎 桂子



日本共産党大演説会

12月8日(土)午後6時30分開会
県伊那文化会館大ホール

- ・党書記局長 市田忠義
- ・比例代表予定候補 藤野やすふみ
- ・長野5区予定候補 三沢よしお

お話し

目からウロコ、世の中が明るくなる話が聞けます。ご家族お揃いでお出かけください。

上伊那地区委員会ホームページ作成!

「JCP上伊那」で検索すると出てきます。

HP管理者は北原栄一さんです。

是非、ご覧ください。

催し案内

三峰川周遊ウォーキング

11月3日(土・文化の日)(雨天中止)

9時榛原河川公園集合

参加費 300円 豚汁サービス付き

主催: 上伊那医療生協健康づくり委員会

申込先: 組合員センター(79-8702)

新婦人創立50周年を祝う上伊那のつどい

11月11日(日)10:00~15:00

大芝高原研修センター(76-0048)

参加費 500円(軽食つき)

・「新婦人のあゆみ」DVD鑑賞や

シャンソン歌手kusuyoさんの歌等

主催: 新婦人50周年を祝う上伊那実行委員会

連絡先: 木内(72-8576)・荒(74-1255)

駒ヶ根夜の街オリエンテーリング

11月14日(水)

午後6時~6時45分受付 7時スタート

駒ヶ根駅前広場集合 雨天決行

参加券3000円(当日販売なし)

主催: 上伊那民主商工会(72-0550)

後援: 駒ヶ根市